

2020 年 6 月 26 日

学校法人平和学園
平和学園小学校
2020 年度 学校だより 第 4 号
〒 253-0031
神奈川県茅ヶ崎市富士見町 5-2
TEL 0467-87-1662/0131
FAX 0467-87-0411
URL <http://www.aletheia.ac.jp/s/>

平和の花

実を結ぶ

年間聖句

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、私もその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。

ヨハネによる福音書 15 章 5 節

学校が再開して元気な子どもの声が心地よい音色として、職員室まで届いています。新型コロナウイルス防止の対策として、朝の通勤ラッシュを避けるため児童の登校時間を遅らせ、下校時間を早めています。登下校に関しても、ご家庭のご協力に感謝します。また、教職員も子ども同様、他の人への感染防止と、自身の感染防止に努めております。まだ日常を取り戻すまでには時間がかかるようです。ご家庭でも引き続き感染防止のご協力をお願いいたします。

先日職員礼拝でお話した内容の一部を記載いたします。

『いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。』（テサロニケの信徒への手紙一 5 章 16～18 節）と書かれています。どんなことがあっても、悲しみや不安に心を奪われてはならないことを、神様は私たちに求めています。「いつも喜んでいなさい」の「いつも」は強い意思のあらわれです。喜びがあった時や楽しい時だけ喜ぶのではなく、「いつも」です。心配事を抱えても、悲しみの中にあっても、死と向き合う中でも、新型コロナウイルスの渦の中にあっても「いつも喜びなさい」と聖書は語っているのです。私たちは『神様、あなたは「いつも喜んでいなさい」と命じられました。どうか、ご命令の通り、いつも喜ばせてください。いつも感謝できるようにしてください。』と祈り求めることができます。悲しみや苦しみをも、喜びと感謝に変えることができたならどんなに素敵で素晴らしいことでしょう。

私たち教職員は平和学園で子どもたちに教える使命があります。神様から与えられた賜物を持っている子どもたちを預かり、関わり、育て、教えることを喜びとする私たちでいられることに感謝です。新型コロナウイルス対応の大変さを今回学びました。今まで学べなかったことを学べたことに感謝です。授業の「間」の取り方は、児童がいないと難しいことがわかりました。通常授業では、児童の素直な表情で授業内容を理解できたかどうかが教師に伝わります。今回の事態では、遠隔授業で「間」の取り方の重要性を学べたと思います。伝えたいことを平和学園らしく子どもたちに伝えるにはどうすればよいのか、さらには子どもたちと一緒に生きたい、子どもたちに教えたい、そんな教職員の強い想いも伝わってきました。教育を実践して行く過程で、何が必要で、何が大事で、何を大切にすることが見えてきました。この学びも感謝すべきことに思えてきます。

今、新型コロナウイルス対応で生活困窮者がいることも覚え、祈り行動することも、自分たちが生きる道につながっています。このようなご時世には、まずは自分にできることをして、次にできないことを克服してできるようにする必要があります。私たち大人がそのような積極的行動に移せるかどうかが問われています。できないと思えることも克服していこうとする姿勢を児童に示すことも、平和学園の教育だと思う今日この頃です。

